

令和 6 年 6 月 27 日現在

機関番号：22703

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K11227

研究課題名（和文）産業看護職の救急対応能力向上のための学習支援システムの構築

研究課題名（英文）Development of a Learning Support System for Augmenting Emergency Response Skills among Occupational Health Nurses

研究代表者

松田 有子（MATSUDA, YUKO）

川崎市立看護大学・看護学部・准教授

研究者番号：20745393

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：事業場での救急対応は、その場の適切な判断と迅速な対応が救命率の向上や障害の拡大防止に不可欠であり、その役割を担うのは産業看護職である。本研究では、プレホスピタルケアを担う産業看護職の救急対応能力を評価するための評価項目を検討した。評価項目の原案は、産業看護職に対するグループインタビューを実施し、その結果とこれまでの研究成果をもとに96項目を作成した。この原案に対し、デルファイ法を用いて産業看護職の経験が10年以上ある企業で働く産業看護職に対し、3回の調査を行い、最終的に65項目に集約した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究により、産業看護職個人の救急対応能力を高めることができ、その結果から強化すべき内容を検討することができる。これらにより、産業看護職の救急対応能力の向上に寄与し、医療機関に結びつくまでのプレホスピタルケアの充実が図られ、事業場の救急医療体制の構築、地域の救急医療体制の構築にも貢献できるを考える。

研究成果の概要（英文）：In emergency response in the workplace, appropriate on-the-spot decision making and rapid response are essential for improving the life-saving rate and preventing the spread of disability, with occupational health nurses playing a key role. In this study, we examined evaluation items to assess the emergency response capabilities of occupational health nurses responsible for prehospital care. For the draft of the evaluation items, group interviews were conducted with occupational health nurses, and 96 items were created based on the results of these interviews and previous research findings. The draft was then surveyed three times using the Delphi method with industrial nurses working for companies with 10 or more years of industrial nursing experience, and the results were finally consolidated into 65 items.

研究分野：産業看護

キーワード：産業看護職 救急対応能力 デルファイ法

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) プレホスピタルケアを担う産業看護職

平成 29 年「高齢者の雇用状況」によると、65 歳以上、または 70 歳以上まで働ける事業場の割合はともに増加傾向にある¹⁾。労働者の高齢化が進むことで、疾病構造の変化、身体機能の低下に関連する事故、疾病から、事業場の救急対応が増加することが予想される。休業 4 日以上²⁾の死傷災害数²⁾および 65 歳以上の救急搬送数³⁾は増加しており、救急車到着または医療機関までのプレホスピタルケアの充実が救命率の向上、障害の拡大防止のために不可欠である。その役割を担うのが産業看護職である。

(2) 産業看護職の救急対応能力向上のための学習プログラムの開発の必要性

事業場での救急対応は、医療従事者、医療設備・物品の不十分な環境で実施することになる。特に、産業医が常駐していない、産業看護職が一人の場合は、すべてを産業看護職が対応しなければならない。また、業種により有害業務(高所、暑熱、有機溶剤など)、交代勤務、生産現場(工場など)、遠隔・点在事業所などにより必要な救急処置、対応方法が異なる。しかし、これら産業保健特有の内容を含んだ学習プログラムは存在しない。救急搬送の 0.8%は労働災害であり、私傷病(労働者の業務外でのケガや病気)になると 64%を占める³⁾。このため、救急対応能力はすべての産業看護職が備えておくべき能力である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、産業看護職の救急対応に関するコンピテンシーモデルに基づいて、コンピテンシーの抽出を行い、その評価尺度を開発して信頼性と妥当性を検証することである。

3. 研究の方法

(1) 救急対応能力の評価項目の抽出

研究デザイン：インタビューガイドを用いた半構造的グループインタビュー調査

対象者：産業看護職 5 名 1 グループ

調査内容：

- ・ 属性(性別、年齢、産業看護職の経験年数、職種など)、事業場の特性(業種、生産部門の有無、産業医の有無、看護職数、雇用形態など)
- ・ 産業看護職の救急対応におけるコンピテンシー、経験(救急対応、困難事例、研修会参加など)、性格特性(まじめさ、ストレス耐性など)、動機付け要因(責任感、興味関心など)

分析方法：インタビュー結果から逐語録を作成し、これまでに抽出された結果と合わせ、内容の類似性に着目し、カテゴリーを抽出、コンピテンシーの評価尺度の原案を作成した。

(2) 救急対応能力の評価項目の検証

研究デザイン：デルファイ法による量的記述的研究

対象者：産業看護職の経験 10 年以上、かつ、事業場での救急対応の経験のある産業看護職

募集方法：産業保健総合支援センター、学会、自主勉強会グループ等、産業看護職の関係団体、および産業看護職の救急対応能力向上のための研修会の参加者に研究協力の依頼をした

データの分析方法：

<1 回目調査>

「産業看護職の救急対応における評価項目」の 93 項目について 5 段階のリッカートスケール(5:とても重要である、4:重要である、3:どちらともいえない、2:あまり重要でない、1:重要でない)を用いて回答を求めた。5 と 4 の回答を質問項目に対する同意とし、同意率と最頻値を求めた。各質問項目にコメント欄を設け、表現や内容等に対し、意見を求めた。

<2 回目調査(1 回目の約 2 か月後)>

1 回目の同意率 80%以上の項目、およびコメント欄で指摘のあった内容を修正した項目に対し、5 段階のリッカートスケール(5:とても重要である、4:重要である、3:どちらともいえない、2:あまり重要でない、1:重要でない)を用いて回答を求めた。5 と 4 の回答を質問項目に対する同意とし、同意率と最頻値を求めた。各質問項目にコメント欄を設け、表現や内容等に対し、意見を求めた。

<3 回目調査(2 回目の約 2 か月後)>

2 回目の同意率 80%以上の項目、およびコメント欄で指摘のあった内容を修正した項目に対し、5 段階のリッカートスケール(5:とても重要である、4:重要である、3:どちらともいえない、2:あまり重要でない、1:重要でない)を用いて回答を得た。5 と 4 の回答を質問項目に対する同意とし、同意率と最頻値を求めた。各質問項目にコメント欄を設け、表現や内容等に対し、意見を求めた。

評価項目の決定：

3 回目の同意率 80%以上の項目を調査項目として採用した。コメント欄にある自由記載の意見について研究者間で検討し表現を修正した。研究者間で分析結果を検討し評価項目を決定した。

4 . 研究成果

(1) 評価項目原案

インタビューの結果から、救急処置に関する知識や技術、さらにそれらを習得しようとする姿勢や職業的背景も影響しているといった内容が得られた。そこで、救急対応能力を評価する項目として、【経験】: 7、【性格特性】: 9、【動機付け要因】: 15、【コンピテンシー】: 65 の 96 項目の原案を作成した。

(2) 評価項目の検証

3 回の調査の結果、評価項目は 65 項目に集約された。

引用文献

- 1) 厚生労働省. 令和 2 年「高年齢者の雇用状況」集計結果.
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_15880.html
- 2) 厚生労働省. 令和 2 年「労働災害発生状況」
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_18226.html
- 3) 総務省消防庁. 令和 2 年版 救急・救助の現況.
<https://www.fdma.go.jp/publication/rescue/post-2.html>

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 松田有子、根岸茂登美、荒木田美香子	4. 巻 12
2. 論文標題 産業看護職が捉える事業場の救急対応における産業看護職の強みに関する検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 健康開発	6. 最初と最後の頁 59-67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 松田有子、根岸茂登美、原田若奈、荒木田美香子
2. 発表標題 産業看護職の救急対応能力の評価項目の検討 救急対応の経験に着目して
3. 学会等名 第96回日本産業衛生学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 酒本瑞姫、松田有子、根岸茂登美、荒木田美香子
2. 発表標題 産業看護職の救急対応における評価項目の検討
3. 学会等名 日本地域看護学会第25回学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松田有子 根岸茂登美 荒木田美香子
2. 発表標題 産業看護職の救急対応能力向上のための「経験」に関する検討
3. 学会等名 第94回日本産業衛生学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松田有子 荒木田美香子
2. 発表標題 産業看護職の救急対応能力向上のための「動機付け」に関する検討
3. 学会等名 第41回看護科学学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 YUKO MATSUDA
2. 発表標題 Examination of the whole person approach for improving the emergency response skills of occupational health nurses
3. 学会等名 The ICOH 33rd International Congress on Occupational Health (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松田有子
2. 発表標題 産業看護職の救急対応能力向上のための「経験」に関する検討
3. 学会等名 第94回日本産業衛生学会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	酒本 瑞姫 (Sakamoto Mizuki) (80825927)	帝京大学・医療技術学部・助教 (32643)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	根岸 茂登美 (Negishi Motomi)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関